

HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

corporate
profile



理念

絶対に 見捨てない。

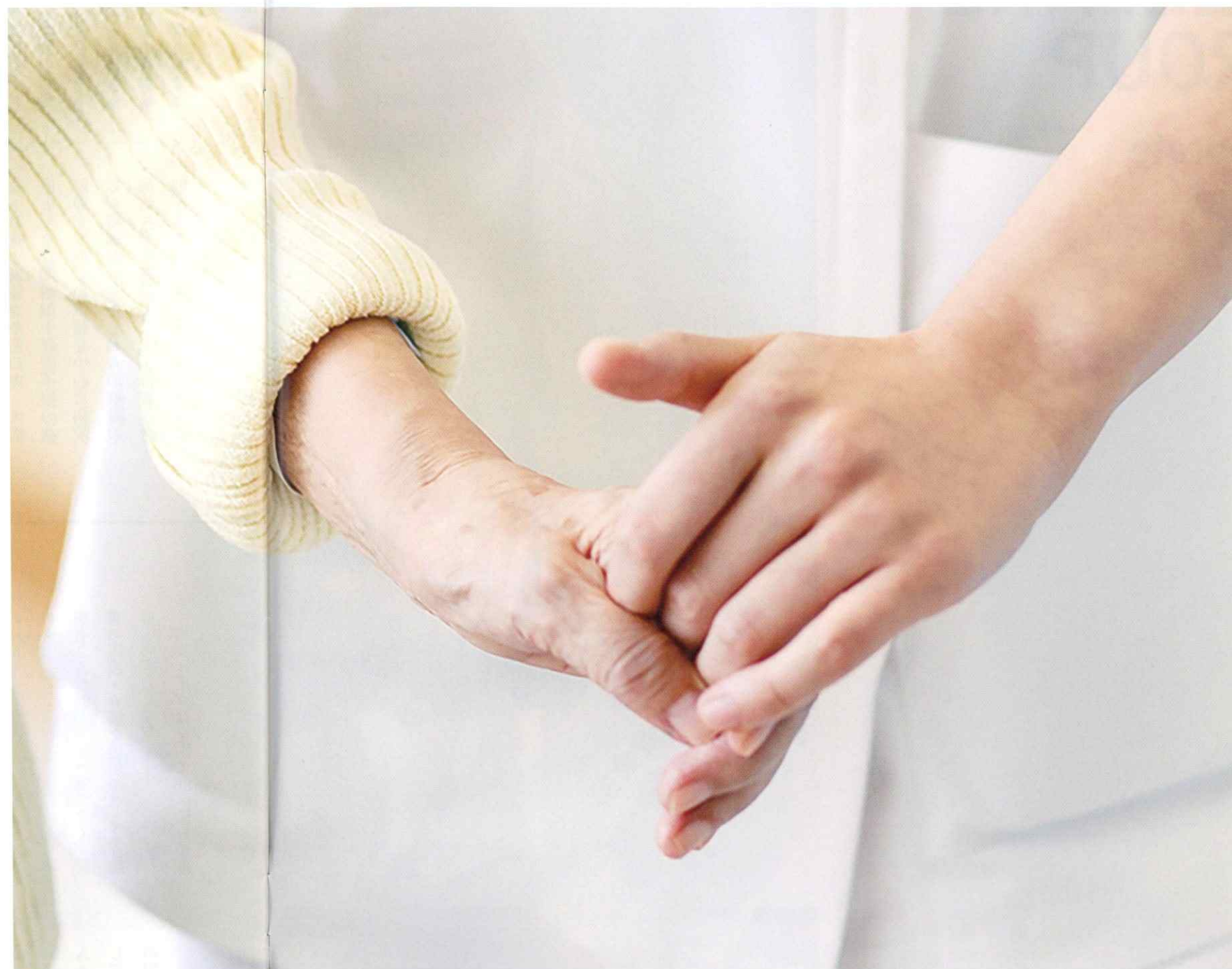
基本方針

「患者・利用者さんのため」を
最優先に考え、行動する

全ての患者・利用者さんに
最善の医療・福祉サービスを提供する

日本の医療・福祉の問題点を分析し、
最適な機能を提案し実践する

専門多職種による徹底した
チーム医療を実践する





平成医療福祉グループ
代表

武久 洋三

Takchisa Yoza

平 成医療福祉グループは30年程前に徳島で60床の病院として生まれ博愛記念病院から始まりました。当時、徳島ではすでに公的急性期病床が大幅に過剰であったために、博愛記念病院はリハビリテーションを中心とした慢性期病院として運営するようになりました。あつという間の30年でしたが、Post Acute Care（急性期を経過した患者さんの治療）のレベルを上げることにより患者さんが在宅復帰できること

を目指して、「良質な慢性期医療がなければ日本の医療は成り立たない」という気概で頑張ってきました。

博愛記念病院は開設2年後に210床となりました。それと同時期に淡路島に病院を開設しました。以来、兵庫県や山口県、大阪府と、主に関西圏で経営不振の病院の立て直しの依頼を中心に病院数が増加し、またそれらの病院の周辺に必要施設として、特養、老健、ケアハウス、グループホーム

などを併設してきました。関東には2009年に横浜市での特養参入をきっかけに、国の企業再生機構（現在の地域経済活性化支援機構）や、産業再生機構などの依頼により緑成会病院、多摩川病院、大内病院等を引き受け経営改善しました。また2013年12月からは、日立製作所の病院であった日立横浜病院（現平成横浜病院）を引き継いでおります。現在では特養、老健などを含めて東京・神奈川・千葉で約2200床の規模になっております。

世田谷記念病院は、2012年にグループの病院として東京の二子玉川に新規開設しました。アメリカのLTAC（Long Term Acute Care）はPost Acuteのみの概念ですが、世田谷記念病院は開設当初からこのLTACに日本の在宅医療・救急医療の窮状を考慮してSub Acuteの機能を加え、グループの集大成の旗艦病院として作り上げました。すなわち、「地域包括ケア病棟」の制度が始まる2年前から全く同じ機能で運営を始めていた訳です。Post Acute

とSub Acuteの両方を受け入れ、強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指しています。グループとしては全面的に、そして強力にこの機能を推進しております。

とSub Acuteの両方を受け入れ、強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指しています。グループとしては全面的に、そして強力にこの機能を推進しております。

とSub Acuteの両方を受け入れ、強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指しています。グループとしては全面的に、そして強力にこの機能を推進しております。

とSub Acuteの両方を受け入れ、強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指しています。グループとしては全面的に、そして強力にこの機能を推進しております。

● ごあいさつ



平成医療福祉グループ
副代表
法人部門長

武久 敬洋

Takechisa Takahiro

平 成医療福祉グループはPost Acute Care（急性期を経過した患者さんの治療）を専門的に行う病院グループとして、急性期病院で治療を終えた患者さんを早期に受け入れ、積極的な治療とリハビリテーションを行い、短期間で在宅復帰させることに力を入れてきました。開設から30年経ち、現在では26の病院の他にも多数の介護施設を運営する医療福祉グループに成長しています。理事長の「絶対に見捨てない」という理念のもと、助けを必要としている全ての患者さんに対して分け隔てなく、最善の医療・介護を提供できるように職員一同努力しております。

当グループは全国で26病院を運営しております。一部、急性期病院や精神病院もありますが、ほとんどの病院は、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、障害者病棟などの病棟で構成されており、Post Acute Careのあらゆる状態に対応出来る体制を整えております。また、Sub Acute（在宅・介護施設等からの患者であって症状の急性増悪した患者さん）を受け入れることで、在宅医療のサポートも積極的に行っております。



平成医療福祉グループ
副代表
診療部門長

北河 宏之

Kitagawa Hiroyuki

武 久洋三代表の下、「良い慢性期医療」を追求し続けて、平成医療福祉グループは開設から30年経ちました。この間に、代表が掲げた「絶対に見捨てない。」の理念達成を目指して共感した多くのスタッフ加わり、全国へ広がっています。代表の、理念達成のために必要なことや正しいことは何があってもやり遂げるといふ姿勢は職員へと深く浸透していつています。

私自身はこれまでのグループの歴史のごく一部にしか携わっていません。微力な存在ではありますが、「絶対に見捨てない。」の理念を守り、たとえ小さな一歩でも確実に前進できるように、全職員と共に努力してまいります。

さらに今では、共感いただいた多くの地域のみなさんや企業の多大なるご支援をいただいております。そして、次の30年のうちに誰もが同じように温かい医療・手厚い介護を受けられる、今よりもっともっと安心して子育てをし、年をとれる社会に

なっていることを切に望んでおります。そのためには、すべての医療・介護・福祉従事者と患者さん・利用者さんやご家族が一緒になって考え、責任を持って医療や介護を提供できる環境をつくりあげていく必要があると思っております。

Group Map

■ 病院・クリニック数 ————— 26

■ 施設・学校数 ————— 76

(開設予定も含む / 平成 29 年 4 月現在)

平成医療福祉グループは東京・大阪をはじめ全国に 26 病院、76 施設・学校を開設運営しています。治療を終えた患者さん・利用者さんを早期に受け入れ、積極的な治療とリハビリテーションを行い、短期間での在宅復帰を目指しています。

くわしくはグループホームページへ <http://www.hmw.gr.jp/>



1 山口県

病院 山口平成病院

施設 ケアホーム山口
ヴィラ本郷
ケアハウス山口エルベ
レジデント山口
グループホーム本郷
平成小規模多機能センター
へいせいホーム
平成デイサービスセンター平田
平成デイサービスセンター黒磯

2 徳島県

病院 博愛記念病院
江藤病院
徳島平成病院

施設 平成アメニティ
明和苑
ケアホーム鷺敷
ヴィラ勝占
ヴィラ羽ノ浦
ケアハウスエルベ
グループホーム勝占
グループホーム渭北
グループホーム八万
グループホーム鳴門
八万小規模多機能センター
メディケアハウス平成
鷺敷デイサービスセンター
平成デイサービスセンター羽ノ浦

3 兵庫県

病院 東浦平成病院
平成病院
南淡路病院
西宮回生病院
神戸平成病院
大原病院

施設 ヴィラ光陽
ヴィラ播磨
ヴィラ一宮
ふるさとの家
ケアホーム東浦
ケアホーム南淡路
平成クラブ

かおりの丘
有馬ホロンの苑
ケアハウス東浦エルベ
淡路エルベ
グループホームふれあいの家
グループホーム北淡
北淡小規模多機能センター
レジデント東浦

学校 平成リハビリテーション専門学校
平成淡路看護専門学校

4 大阪府

病院 豊中平成病院
平成記念病院
弥刀中央病院
浜寺中央病院
堺温心会病院
岸和田平成病院
泉佐野優人会病院

施設 ケアホーム豊中
弥刀介護老人保健施設
メディケアハウス春木
レジデント豊中
優人会小規模多機能センター
中央デイサービスセンター
離宮 千里山
訪問ステーション てとと 東大阪
サポートあいかわ
グループホーム エスペランサ
えんじよい

淀川暖気の苑
だんけのそのボレボレクラブ
歩笑夢
淀川地域障がい就労・生活支援センター
特別養護老人ホーム 淀川暖気の苑
淀川暖気の苑 高齢者デイサービスセンター
居宅介護支援事業所 淀川暖気の苑
十三ランチ
だんけ配食サービス
ホームヘルプサービス事業 だんけ
地域生活支援センター すけっと
たがわ福祉センター
海萌
だんけ デイサービスセンターたがわ

7 東京都

病院 世田谷記念病院
多摩川病院
緑成会病院
緑成会整育園
大内病院
大内クリニックおおくぼ
平成扇病院

施設 ケアホーム足立
ヴィラ町田
藤香苑
高齢者グループホームこもれば
小規模多機能センターほのぼの
平成デイサービスセンター足立
ケアホーム千鳥
ケアホーム花畑

学校 聖和看護専門学校

5 和歌山県

施設 緑風苑

6 三重県

施設 ヴィラ四日市
富洲原複合型サービスセンター
富洲原通所介護センター

8 神奈川県

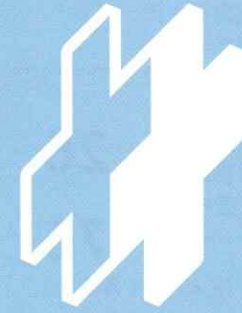
病院 平成横浜病院

施設 ケアホーム横浜
ケアホーム三浦
ヴィラ横浜
ヴィラ桜ヶ丘
ヴィラ南本宿
ヴィラ都筑
ヴィラ泉
ヴィラ神奈川

9 千葉県

病院 印西総合病院

施設 ケアホーム船橋



平成医療福祉グループが 取り組んでいること。

平成医療福祉グループは、1984年に徳島で60床の病院からスタートし、
現在は全国に25病院、70施設を展開しています。
そんな私たちが地域に根ざした医療を提供するために、
いま取り組んでいることをご紹介します。



みんなで一緒に考えると、患者さんにとって本当に必要なことが見えてくる。

1 チーム医療



「チーム医療」と聞くと、そのチームの中心はお医者さんと思うかもしれませんが、チームの中心は治療を受ける患者さんなのです。患者さんを中心に、医師・看護職員・介護職員・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・事務職員など、多職種のスタッフがそれぞれの専門性を活かして治療を支えていきます。診療に関わるスタッフは、定期的に多職種でカンファレンスを行なっています。それぞれの職種が持つ専門性を尊重し、意見を交換することで患者さんにとって必要な治療や栄養、効果的なリハビリテーションやお薬などがわかります。また、それぞれの目線から見得た情報の共有を行うことで、早期から効果的な治療やサポートを行うことができます。

グループとしてのチーム

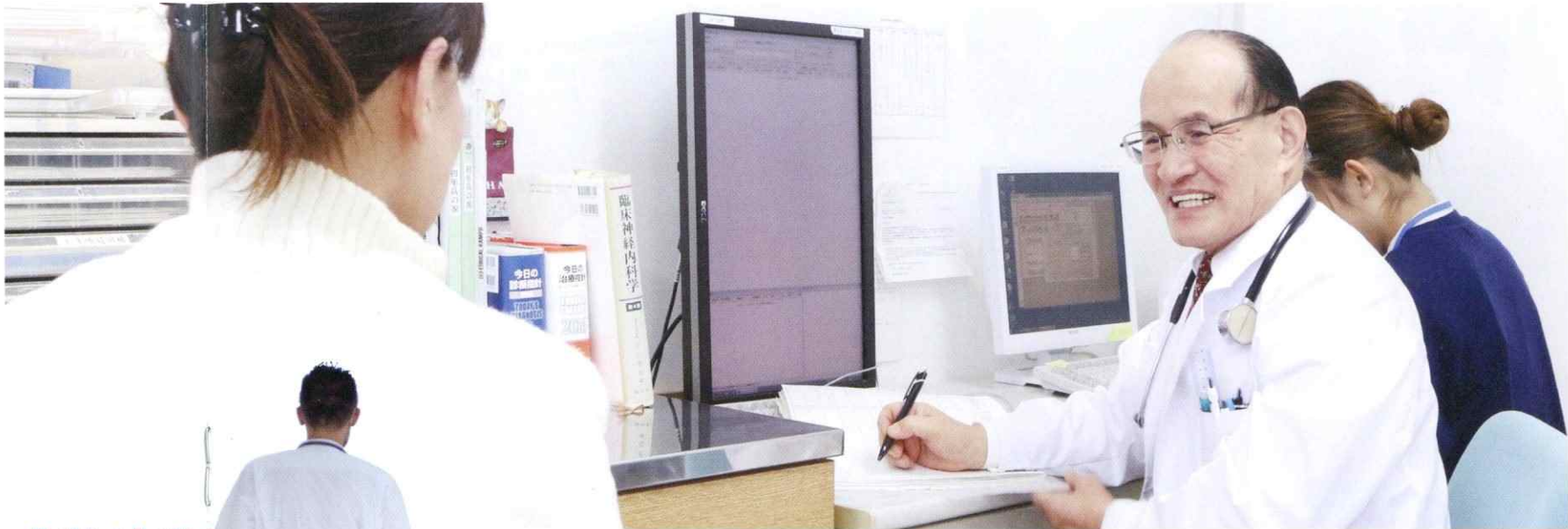
それぞれの病院でチーム医療を行なっていますが、平成医療福祉グループの場合はそれだけにとどまりません。全国のグループ病院のスタッフは診療部門、リハビリテーション

チーム医療とは

部門、看護部門、介護部門、薬剤部門、栄養部門などの専門職ごとにチーム分けされています。このチームがあることにより各専門職は院内での意見交換のみならず、他施設の専門職とも意見交換をすることができます。院内のチーム、グループ全体の専門職チームにより質の高い医療をサポートしています。

多職種が協力し連携して、
しっかり患者さんをサポートします！





その人ごとに合わせた、
最適な医療を提供します。

医療

2

地域で必要とされる医療を提供できるよう、
医療の質を高めるために日々努力をしています。

地域で必要とされる 医療の追求

私たちは「自分たちのやりたい医療」ではなく「地域に必要とされる医療」を提供することを目指しています。地域のなかでしっかりと根を張って、その時代、その地域に、最も必要とされている病院を目指して柔軟に形を変えてきました。そのため、各地にあるグループ病院は機能も規模も全く異なります。超高齢社会、人口減少社会の日本は医療において大幅な変革がなされようとしています。これからも時代を読み、地域のニーズを的確に汲み取って、地域になくはない病院でいられるよう最大限に努力を続けてまいります。



高齢者医療のスペシャリスト

医療は日々進化し、より高度で複雑になっていきます。世界中で標準的な治療ができるように国内外の学会で各疾患の治療指針が作成され、それが医療現場で利用されています。しかし、これらの治療指針のほとんどが若者向けに作られており、高齢者用の治療指針はほとんど存在しません。



約30年前の創業以来、私たちは一貫して高齢者医療の専門的な治療を続けてきました。高齢者の身体は、さまざまな点において若い人たちと異なりますので若い人と同じ治療法ではうまくいかないことが多いのです。治療指針のない高齢者医療の世界で、私たちは最良の治療を目指して30年間努力し、ノウハウを積み重ねてきました。

医療の質向上のための努力

私たちは実践的な高齢者医療のスペシャリストとして地域医療に貢献します。また、私たちの取り組みを全国に広めて日本の高齢者医療をよりよくするために頑張ります。

多職種間で最新の医療・福祉情報をグループ内で共有することを目的として、年に1回グループ学会を開催しています。グループの各病院・施設からさまざまな職種の職員約750名が発表・聴講しています。こうした学会での発表を行うことで、グループ職員全体の意欲が高まり、グループ外での全国学会等への発表成果にもつながっていきます。さらに、職種や病院・施設に限らず、さまざまな視点から発表される内容に新たな発見をし

たり、日常業務への意欲が向上でき、よりよい医療の提供へとつながります。グループの理念である、「絶対に見捨てない。」を達成するための治療方針や知識などの共有を目的に、新人医師研修を行っています。多くのスタッフを有するグループだからこそ意識の共有は大切です。研修には、グループ内で編集した教科書を使用しています。

教科書は、現職の医師やスタッフが執筆し、グループの理念を実現させるために必要な考え方や治療の進め方、患者さんとの接し方や仲間とのコミュニケーションの取り方などについてまとめています。

このほかにも、理念・意識の共有のため、ポスターを作成し、掲出するなど、医療の質の向上につながるよう、さまざまな取り組みを行い、努力を重ねています。

全国から職員が集まり、
学会を開きます！



理念を伝えるための
ポスターも！



リハビリテーション

病気を発症する前の状態へ戻るために、
患者さんの「やりたい」の気持ちを大切に、
当グループではリハビリテーションに力を入れています。



リハビリテーションを行います！
お家での動作を想定して



充実したリハビリテーション

当グループはリハビリテーションを特に重要視しています。高齢の患者さんの場合、急性期治療を終え入院された患者さんの日常生活動作（ADL）は病前と比較して著しく低下しています。在宅復帰のためには十分なリハビリテーションが必要です。充実したリハビリテーションにより在宅復帰を目指すことはもちろん、退院後も訪問リハビリテーションや外来リハビリテーションなどの在宅部門にも力を入れ、安心できる在宅生活を支えます。

総合的な視点を持つ

リハビリテーションに関わるリハビリスタッフは、立つ・歩くなど基本動作を見る理学療法士（PT）・家事や手作業などより細かい動作を見る作業療法士（OT）・飲み込みや発声を見る言語聴覚士（ST）です。それぞれの職種の専門性を高めながら、お互いの専門性への理解を深めています。

特に訪問リハビリテーションでは患者さんの異常や問題を発見することもあり、その場ですぐに対応策を提案・相談できるよう、意識で、自らトイレで排泄を行う、この当たり前の行為を入院後早期から行っていただけのように全力でサポートしています。

日常生活動作（ADL）

トイレや着替え、歩行や階段など、日常生活のなかで介助が必要になっている動作に対し、リハビリスタッフがピンポイントで専門的に関わります。個別・集団リハビリテーションに加え、一人ひとりに必要な動作への絞ったこの取り組みは、目標とする動作の獲得につながり、早期の在宅復帰へとつながります。また、グループの病院にはADL室があり、掃除機やアイロンがけなど、より自宅での動作を想定したリハビリテーションを提供することができま

在宅部門への取り組み

実際にご自宅へ戻られてから、新たに問題点や不安が生まれることもあります。そういった場合にも、患者さんが安全で安心できる在宅生活を継続できるよう、在宅支援を目的としたリハビリテーションの提供を充実させています。退院後にも在宅生活を送りながらリハ

常に総合的な視点でリハビリテーションを提供しています。

「口から食べる」を応援する

高齢者は疾病などで状態が悪化した場合、嚥下（飲み込む）機能が低下し疾病は治癒したものの、食事ができず在宅復帰できない状態になることがあります。そうしたことを防ぐため、言語聴覚士（ST）を中心に入院後早期から嚥下機能を評価し、適切な食事提供と機能訓練を行っていきます。経管栄養の患者さんにも、もう一度口から食べる喜びのために口から食べられる可能性を最後まで考え、適切なリハビリテーションを提供します。

「自分でトイレ」を応援する

尿意・便意の回復とトイレ動作の獲得は、在宅復帰を目指すリハビリテーションにおいて、摂食・嚥下と並ぶ最重要課題のひとつです。尿道カテーテルが、本当に必要な患者さんには実はそんなにないのです。必要なくなっているのに、なんとなく続いたままにされていることもあるのです。当グループでは、積極的に尿道カテーテルをなくしていき、自らのリハビリテーションを続けられるサービスとして、病院や関連施設で外来リハビリテーション、デイケア・デイサービス・訪問リハビリテーションを提供しています。

入院中の情報を共有してリハビリテーションを提供するので、在宅復帰後もスムーズに必要なリハビリテーションを受けることができます。顔なじみのスタッフが待っていることで、利用者が新たな環境に戸惑うことなく、また、サポートをするご家族からのご相談にも経過に合わせたアドバイスが提供できます。





5 介護

患者さんの近くに寄り添い、心を支えるのはもちろん、
必要なケアが患者さんにしっかり行き届くよう、
他職種と連携してサポートを行います。



より快適な入浴を

当グループでは、週3回の入浴を基本とし、
身体の清潔保持・スキントラブルの防止に努
めています。入浴時には看護師と連携して、
複数名でのサポートをしています。一人ひとり
の身体状況に合わせて、横になった体制のまま



安心できる介護士

「あなたにだからお願いできるのだけども」と、
言ってくださる患者さんがいらっしゃいます。
ちょっとしたわがままを言えるような介護士
として、日々の治療を辛く感じる患者さんの
心と体を支え、安心できるひとときを過せ
るように、サポートいたします。私たちは、
患者さんの声にならない思いを受け止め、
精一杯のケアをできるよう努めます。

介護士の役割

不安の多い入院生活や入所生活でも、一人
ひとりがその人らしく生活していただけるよう、
介護士を含む医療チームでケアを行っていま
す。トイレやお風呂など生活に必要な介助では、
好みやクセ、思いや習慣など一人ひとりの
個性を尊重した介助を実践しています。

特定看護師とは、今まで医師の指示のもと
行っていた「診療の補助」の範囲をさらに広げ、
特定の分野における医療行為を実施できる
看護師を指しています。つまり、これまで医
師にしかできなかったケアの一部が看護師で
も対応できるようになり、緊急時などでも医
師の指示を待たずに特定看護師の判断で早急
な対応ができるようになったのです。この特
定看護師になるには、厚生労働省が指定する
研修機関で、特定行為研修を受ける必要があ
ります。当グループでは、積極的にこれを受け、
現在は各病院に特定看護師が配置されています。
チーム医療のキーパーソンとなる看護師の
養成を進めています。

頼れる看護師

当グループの看護部では、看護師同士での
指導や情報の共有をし、企画された取り組み
だけに頼ることなく、一人ひとりの技術や知識、
看護師としての意識を高めることに力を入れる
ことで、看護ケアの質が上がると考えています。
患者さん一人ひとり
の体調や状態に合わ
せた適切なケアの提供
を行える看護師の育成
に努め、安心して頼れ
る看護を提供します。



看護師一人ひとりの
レベルアップ!

患者さんの痛みを和らげ、心を癒す存在として、
看護師一人ひとりの技術を高め、
安心して頼れる看護を提供します。

4 看護

特定看護師の養成

排泄に関するケアを重要視しており、患者さん
の精神的な負担と身体的な負担の両方を軽減で
きるように、知識や手技の共有を行い、適切
なケアの実現へ積極的に取り組んでいます。
また、リハビリスタッフと患者さんの状態を
共有し、自分の力で自然に排泄ができるよう、
指導やサポートも行っていきます。

排泄ケア

排泄ケアは、自分の力で自然に排泄を行う
ことができない、もしくは介助がなければ排
泄行動をとることができない場合に看護師が
介助に入ることです。排泄に関することを他
人にされるのは恥ずかしい、辛いと考える方は、
当然多くいらっしゃいます。当グループでは



患者さんに必要で、
安心できるお薬を。



6 薬剤

全ての患者さんへ、負担のかからない最善のお薬を。
私たちは本当に必要なお薬だけを提供します。

多剤内服をなくす取り組み

飲みやすいお薬の提供

たくさんの方が病気に対して、お薬を重ねていくうちに種類が増えてしまったり、症状がなくなっているのにお薬を続けてしまっていることがあります。また、さまざまな研究で、5種類以上の内服は、薬物相互作用の頻度が高くなることわかってきています。このことから、当グループでは「足し算の処方」から「引き算の処方」へと考え方のシフトが必要と考え、5種類以上の服薬を多剤内服として定めて積極的に服薬数を減らす取り組みをしています。もちろん治療に必要なお薬はしっかり飲んでいただけるよう薬剤師がサポートいたします。

この取り組みのためには、薬剤部だけでなく医師や看護師など、他職種にも周知し、全体で協力し取り組むことが重要と考えています。病院だけでなくグループ全体が一体となってこの取り組みを進めています。



患者さんが分かりやすく安全にお薬を服用出来るよう、ほとんどの患者さんへ、服用するタイミングが同じお薬や1回に複数個服用するお薬を、1袋ずつパックにする一包化調剤を行っています。また、一つひとつのお薬の包装には
バーコード
や服薬する
タイミング
などの印字
を施し、誤
薬や飲み忘
れ防止の対
策に取り組んでいます。

また、錠剤などお薬の飲み込みが難しい方も服用しやすいように、水なしでも口に入れるとすぐに溶ける口腔内崩壊錠を積極的に採用しています。経管栄養の患者さんには、お薬をお湯に溶かして、経管栄養と同じように服薬していただく、簡易懸濁法を導入しています。

献立への工夫

経管栄養剤

当グループのお食事は病院や施設にいても四季を感じられるよう、旬な食材を使い、ちらし寿司やクリスマスケーキなどの行事食を提供しています。他にも、病院にしながら各県のお料理を楽しめるよう毎週1回郷土料理を登場させています。郷土料理といっても日本のものだけではなく、海を飛び越え海外の料理が目見えすることもあります。これは患者さんの知的好奇心を刺激したり、コミュニケーションの種を蒔くことを目的とした取り組みで、日々のお食事をより楽しめるようにしている工夫の一つです。また、食事が十分に取れない方や、取れていても栄養量が不足している方への栄養補給のために食事に付加する栄養補助飲料やゼリーなどの「付加食」にも力を入れていきます。食事の内容を考え、積極的に食事を取ることができるよう工夫していきます。

人は栄養なくして生きていけません。患者さんの中には機能の低下で口から食べられなくなった方もいます。そのような方でも治療に必要な栄養をしっかりと摂れるように、当グループでは、経管栄養剤の開発をしています。肉魚野菜等の自然食品を原料とした天然濃縮流動食です。口から食べるのと同様に生理的消化吸収が必要なので、胃や腸の機能低下の予防につながります。

ミールラウンド

ミールラウンドとは、栄養部を中心にスタッフが、お食事をしている患者さんの元を訪れ、患者さんの食の進み具合や好みや伺ったり、必要な栄養がしっかりと摂れているかなどを確認したりすることです。直接食事の感想や要望を伺うことで数値だけではわからない患者さんの体調や状態を知ることができ、より一人ひとりの患者さんにあつた食事を提供できます。

見た目も楽しい食事を提供します！



7 栄養

栄養を摂るためだけの食事ではなく、食べる楽しみにつながる食事の提供を。みなさんが関心を持てる食事を考えていきます。



私たちが提供しているのは「栄養を摂取するための食事」ではなく「楽しみ」でもあります。これからも喜ばれる食事を提供できるように、患者さんの声を大切に栄養を考えていきます。

絶対に見捨てないプロジェクト

絶対に見捨てないプロジェクト

身体抑制は、廃止します。

身体抑制は、廃止します。

身体抑制は、廃止します。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

絶対に見捨てないプロジェクト

みんなに嬉しい食事を。

みんなに嬉しい食事を。

みんなに嬉しい食事を。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

絶対に見捨てないプロジェクト

目的を持った離床を。

目的を持った離床を。

目的を持った離床を。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

絶対に見捨てないプロジェクト

「自分でトイレ」を、応援します。

「自分でトイレ」を、応援します。

「自分でトイレ」を、応援します。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

絶対に見捨てないプロジェクト

「口から食べる」を、応援します。

「口から食べる」を、応援します。

「口から食べる」を、応援します。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

絶対に見捨てないプロジェクト

多剤内服には、させません。

多剤内服には、させません。

多剤内服には、させません。

平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

8 検査

体の異常の発見や、正しい診断のために、
正確な検査を行って、チーム医療の一端を支えています。



正確な診断

医師は患者さんの今の身体の状態が正常な状態と比べて、何がどれだけ変化しているのかを元に正しい診断を行います。血液や尿などを一部から採った材料を用いて患者さんを調べる「検体検査」と、心電図やエコー検査など、機器を利用して患者さんの体を直接調べる「生理学的検査」があり、この検査には臨床検査技師が携わります。また、体の内部を放射線を用いて映し出す、CT検査やレントゲン検査などの「放射線検査」があり、この検査には診療放射線技師が携わります。正確な診断につながるということを意識して、日々研鑽しています。

検査機器の充実

各種検査に欠かせないのが、検査機器です。当グループでは積極的に最新機器の導入を進めています。体の横断像を3D立体画像で撮像し、病気の発見から治療後の経過の観察など、幅広い場面で活躍する「高速マルチスライスCT撮影装置」や、磁気の力を利用し、体内信号から頭部の断層像や血管像のほか、

全身の臓器を見ることが出来る「15テスラMRI」を設置しております。大きな検査機器は、お子さんやお年寄りには圧迫感がより少なくなるようなものを採用し、安心して検査を受けることができる環境作りをしています。



正確な診断で、健康に貢献します！

チーム医療の一員として

検査の内容は、年々高度化しており、診断だけでなく、病気の早期発見と予防にとっても役立ちます。こうして発見した病気のリスクや患者さんの体調の変化などを、医師や看護師など、他職種と共有し、チーム医療に貢献しています。患者さんの不安を解消し、安心できる診断ができるように、私たちは正確な検査に努めています。

グループ全体の大きな取り組みとして、「積極的な離床」「多剤内服の防止」「食事への楽しみ」「身体抑制の廃止」「排泄機能の回復」「摂食・嚥下の回復」の6つを推進しています。これを理念ののっとり「絶対に見捨てないプロジェクト」として、グループ全体で取り組んでいます。しっかりと意識して取り組むため、また、患者さんへもその取り組みを知っていただくために、院内にプロジェクトポスターを掲出しています。プロジェクトでどんなことをしているのか、ぜひご覧ください！



Nutrition Management Recruit Guide

平成医療福祉グループ
栄養管理部 採用案内

理念・基本方針

理念

「絶対に見捨てない。」

基本方針

1. 「患者・利用者さんのため」を最優先に考え、行動する
2. 全ての患者・利用者さんに最善の医療・福祉サービスを提供する
3. 日本の医療・福祉の問題点を分析し、最適な機能を提案し実践する
4. 専門多職種による徹底したチーム医療を実践する

代表あいさつ

「絶対に見捨てない。」医療や福祉を
これからも理念として掲げ、
邁進して行くことをお約束いたします。

平成医療福祉グループ 代表

武久 洋三

Takehisa Yoza



平成医療福祉グループは約30年前に徳島で60床の病院として生まれた博愛記念病院から始まりました。リハビリテーションを中心とした慢性期病院として Post Acute Care (急性期を経過した患者さんの治療)のレベルを上げることにより患者さんが在宅復帰できることを目指して、「良質な慢性期医療がなければ日本の医療は成り立たない」という気概でがんばって参りました。Post Acute と Sub Acute (在宅・介護施設等からの患者であって症状の急性増悪した患者さん)の両方を受け入れ、強力なリハビリテーションと的確な治療により在宅復帰を目指しています。グループとしては全面的に、そして強力にこの機能を推進しております。ようやく、良質な医療福祉施設を機能的に運営できる集団として「平成医療福祉グループ」を自信を持って旗揚げすることができました。最近では、急性期機能を有する病院の運営や、在宅支援分野へも、より力を入れております。

時代は大きな変換点を迎えております。医療福祉分野の効率化は喫緊の課題となっておりますが、当グループは国民のためになる、患者さん・利用者さんのためになる医療福祉を追求して参ります。「絶対に見捨てない。」医療や福祉をこれからも理念として掲げ、邁進して行くことをお約束いたします。

CAREER INTERVIEW

キャリア・インタビュー

平成医療福祉グループ 栄養管理部を支える

キャリア職員たちにインタビュー。

栄養管理部の現在と、これからについて

語ってもらいました。



平成病院

係長

岩城 達也
-管理栄養士-

手料理がふるまえる 管理栄養士になれます

ご飯を食べて元気になってもらう、という当たり前のことを当たり前に行いたくして私はグループにやってきました。料理や調理は前職で、栄養管理は当グループで学び、今の私があります。100点満点の栄養プランを立てられたとしても、食べてもらえなければ意味がありませんよね。直営給食はそういった

意味では非常に重要で、かつ難易度が高いものになります。おいしいご飯も栄養管理も同じくらい患者さんや他職種からのニーズがあります。私はその経験が両立できるこのグループは最高だと思っています。「おいしいご飯をありがとう」と言ってもらえる管理栄養士と一緒に目指していきましょう!

私は新卒でグループの介護老人福祉施設に入職しました。そこで管理栄養士として働くなかで、利用者さんから施設生活における食事は本当に楽しみであり、食事を通じた健康管理の重要性を学びました。今は役職者として、現場の管理栄養士が働きやすい環境を作るために制

度やマニュアルの作成、研修を行っています。

今後も一人ひとりの管理栄養士が、全ての患者さん、利用者さんに適切な栄養管理を提供し、安全でおいしい食事をお届けできるよう、目指していききたいと思います。



ケアホーム花畑

課長

堤 亮介
-管理栄養士-

食事を通して栄養ケアを行う

「楽しみは食べることだ」という声をよく聞きます。私たちはその声に応えるため、『栄養を摂取するだけの食事』ではなく、『栄養が摂れることはもちろん、楽しい・嬉しいと感じることができる食事』の提供を目指しています。

私たちが提供した食事で、患者さんや利

用者さんが元気になる、笑顔になる。管理栄養士は『献立や栄養計画』を作るだけの仕事ではなく『笑顔』を作れる仕事です。そしてそんな『笑顔』を作る私たちも楽しく生きがいを感じられるような栄養部を目指しています。私たちと一緒に学び成長していきましょう!



山口平成病院

課長

川口 奈緒美
-管理栄養士-

食べる人も働く人も楽しい 食事提供を目指して



食事から施設全体を笑顔に!!

特養の利用者さんは、病院等と比べると長い時間を施設で過ごされていて、そのなかでも食事やおやつを何よりも楽しみにされています。その楽しみな気持ちにできるだけ寄り添い、個々に合わせた食事を提供しています。当グループでは、こだわりの手作り献立

や、調理コンクール、郷土料理と食事にとっても力を入れています。栄養士でも現場に入り、調理技術のスキルアップもできます。私は魚の捌き方も習得できました。困ったことがあれば相談しやすいのも、当グループの特長だと思います。ぜひ、一緒に楽しくがんばりましょう!

ウイラ橋

リーダー

稲田 真緒
・栄養士・



ふるさとの家

リーダー

藤原 麻由
・栄養士・

食事がひとつの楽しみと 思ってもらえるように

厨房の現場はチームワークが大切です。決められた時間内、に安心で安全な食事が提供できるように、一人ひとりがそれぞれの業務に責任を持って、日々取り組んでいます。厨房内だけでなく、他職種とも意見交換を行いながら情報を聞き、実際に食事の様子を見に行ったり、利用者さん

の声を聞くことで、いろんな発見もできます。喜んでもらえたり「いつもおいしいご飯をありがとう」などと言ってもらえた時は、嬉しさも感じ、仕事のモチベーションも上がると思います。みんなが一同となって、利用者さんに合った食事、満足のいく食事提供を目指していけたらと思います。



やりがいを見つけた場所

最初は無料の託児所があるという簡単な理由で選んだ職場でした。しかし、現在は、利用者さんの目の前で食事を提供するという緊張感もありますが、直接「おいしかった」「いつもありがとう」の声を聞くことができ、それが嬉しくてまたがんばっておいしいものを!というやりが

いを感じるすることができます。他職種の職員さんともコミュニケーションが取りやすく、利用者さんが笑顔で過ごせるよう、協力しながら仕事ができる職場です。

おうち診療所 堺

リーダー

小田 沙織
・栄養士・



技術を生かし、 スキルアップできるグループ

当グループの食事は、既存のメニューに満足せず、現場の意見を取り入れ、新しい献立や調理方法の導入を行っています。患者さん、利用者さんにとって、本当に良いものを常に考え、グループ全体で努めております。そのなかでも調理師は、おいしい食事を

作れるように、技術向上やスキルアップができる体制や制度があり、日々充実した毎日を送れる環境だと思います。おいしいと言ってもらえることを目標と一緒にがんばってみませんか?

鳥佐野優人会病院

料理長

柑本 光彦
・調理師・



地田谷記念病院

料理長

上野 嘉弘
・調理師・

福利厚生充実が 病棟との連携につながっています

どうしても孤立しがちな厨房業務ですが、運動会や慰安旅行、忘年会などの福利厚生イベントが充実しているため、病棟スタッフとの交流や情報共有がしっかりできる環境です。年1回の調理コンテスト入賞者の献立や郷土料理などの調理は、準備も多く大変

なこともあります。患者さんから「おいしかったです」の声が伝えられると励みになり、やりがいを感じます。患者さんにおいしい食事を提供するために一緒にがんばりましょう。



元気と笑顔のこぼれる食事づくり

私たちは患者さんからの「おいしかったよ、ありがとう」という言葉をやりがいに感じ、日々、安心安全な食事提供を心がけています。そして食事の質を上げるスキルアップの一環としての調理ライセンス取得も目標のひとつとなっています。また、さまざま

な年代の職員が安心して仕事に取り組めるようコミュニケーションを大事にし、気配りや思いやりを忘れず、食事作りを通して患者さんにおもてなしの心を届けたいと思います。私たちと一緒に元気と笑顔を届ける食事づくりをしてみませんか。

山口平成病院

主任

藤崎 万里子
・調理師・





栄養管理部の
3つの
取り組み

2

一人ひとりにあわせた 献立の工夫

献立についての工夫として、通常の食事のほか、ソフト食、ペースト食など、噛む力・飲み込む力に応じて、食事の形態を分けているのも特長です。また、食事が十分に取れない方や、取れていても栄養量が不足している方が必要な栄養を補給できよう、食事に付加する栄養補助飲料やゼリーなどの「付加食」にも力を入れています。グループではオリジナルのものを作成し、より積極的に食事をとってもらえるように力を入れています。



1

みんなに 嬉しい食事を

適切に栄養を摂ることができなければ、病気は治らず、リハビリの効果も出てきません。当グループでは、あらゆる状態の患者さん・利用者さんに適切な栄養を提供できるよう、多種多様な献立を用意しています。そのなかで、日々の食事をより楽しいものにできるよう努めているのが特長です。例えば、病院や施設にいても四季を感じてほしいという思いから、旬の食材を使用して



いるほか、ちらし寿司やクリスマスケーキなどの行事食も提供しています。ほかにも、毎週1回、各地の郷土料理が献立に登場します。しかも、郷土料理は日本のものだけでなく、海外の料理を提供することも。こうした取り組みによって患者さんの知的好奇心を刺激し、コミュニケーションの種を蒔くことを目的としています。これからも、みなさんがもっと食事に関心を持てるよう、取り組み続けていきます。

3

患者さん・利用者さんの声を 大切にした栄養管理

当グループの栄養部では、患者さん・利用者さん一人ひとりの栄養管理に力を入れています。

糖尿病や脳・心血管疾患などにつながる過栄養はもちろんのこと、社会問題となっている高齢者の低栄養も、治療・リハビリ・在宅復帰などに大きく影響するため、早期の介入が重要です。

そこで管理栄養士が全ての対象者にしっか

りと栄養評価を実施し、個々に合わせた栄養計画・介入・再検討を繰り返し行っています。しかし、食事は『栄養』のほかに『楽しみ』としても大きな役割を果たします。そのため、実際にお食事をしている患者さん、利用者さんの元を回診する「ミールラウンド」を通して得られる声を大切にしています。

これからも喜ばれる食事と、QOL向上のための栄養管理を提供していきます。



01

病院勤務の

管理栄養士のシゴト



長井 衣里子
泉佐野優人会病院
管理栄養士

栄養面から回復を支える仕事です！

私たちの仕事は、患者さんの栄養管理や栄養指導などの臨床以外にも、厨房内の衛生管理、食材の品質管理など多岐にわたります。多職種で連携して1人の患者さんを回復させることができるということ、が病院管理

栄養士の魅力だと思います。教科書通りにはいかない症例が多く悩みますが、その分学ぶことが多いです。生きていくうえで安全で大切な栄養を適切に提供することが、私たちの役目だと思っています。



02

施設勤務の

管理栄養士のシゴト



蜂須賀 早紀
ヴィラ桜ヶ丘
管理栄養士

一人ひとりの生活に寄り添う仕事です！

施設の管理栄養士は、一人ひとりの生活に寄り添って、食事・栄養面から長期的に支援できるところが魅力だと思います。身体機能や咀嚼・嚥下機能を考慮しつつ、できる限り家にいた頃のような生活を保てるよう、常に多職種で連携を取るようになっています。

今年からは、目の前の利用者さんの支援だけでなく、エリア内のグループ他施設の業務支援もするようになりました。栄養管理部全体のスキルアップや業務改善が、より多くの利用者さんの施設生活の充実につながるよう、今自分にできることを精一杯やっています。



03

栄養士のシゴト

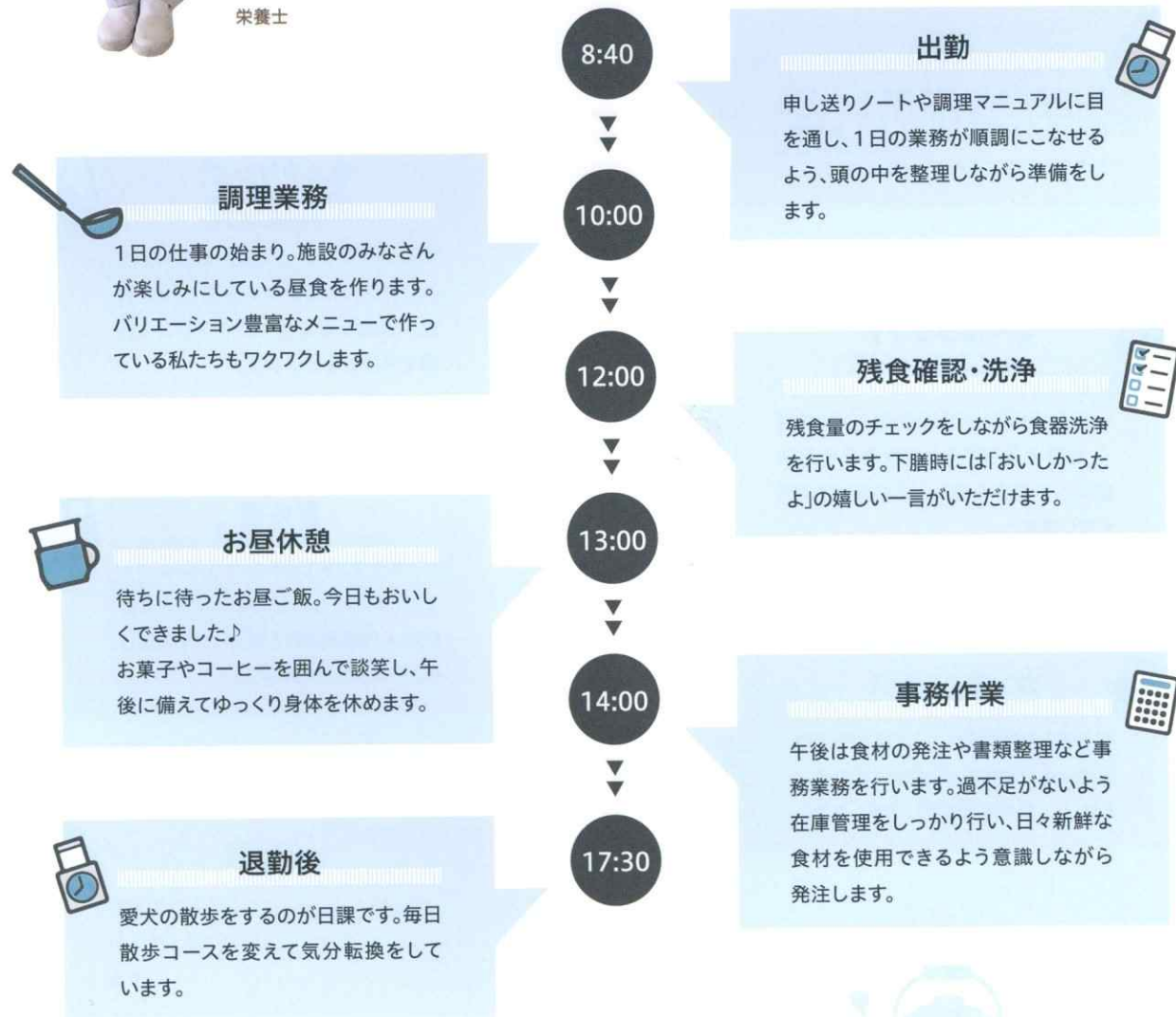


高橋 美優
山口エルベ
栄養士

全国、世界各地の料理を提供します！

食べるだけで心も体も元気いっぱい満たされる食事の効果に興味を持ち、栄養士になりました。その思いどおり、利用者さんが食事をされて自然と笑顔になっていることに日々喜びを感じます。和食をはじめ、洋食、中華、各都道府県の郷土料理、世界の食事まで楽しめる豊富なレパートリーを365日提供

します。栄養面が十分に管理されていることはもちろん、味も見た目もおいしい食事であること、まるで家庭のような温もりのある食事であることを常に心がけています。そんな毎日の楽しみである食事に関わることでできる仕事に誇りを持ち、今日も安心安全な食事提供に努めます。



04

調理師のシゴト

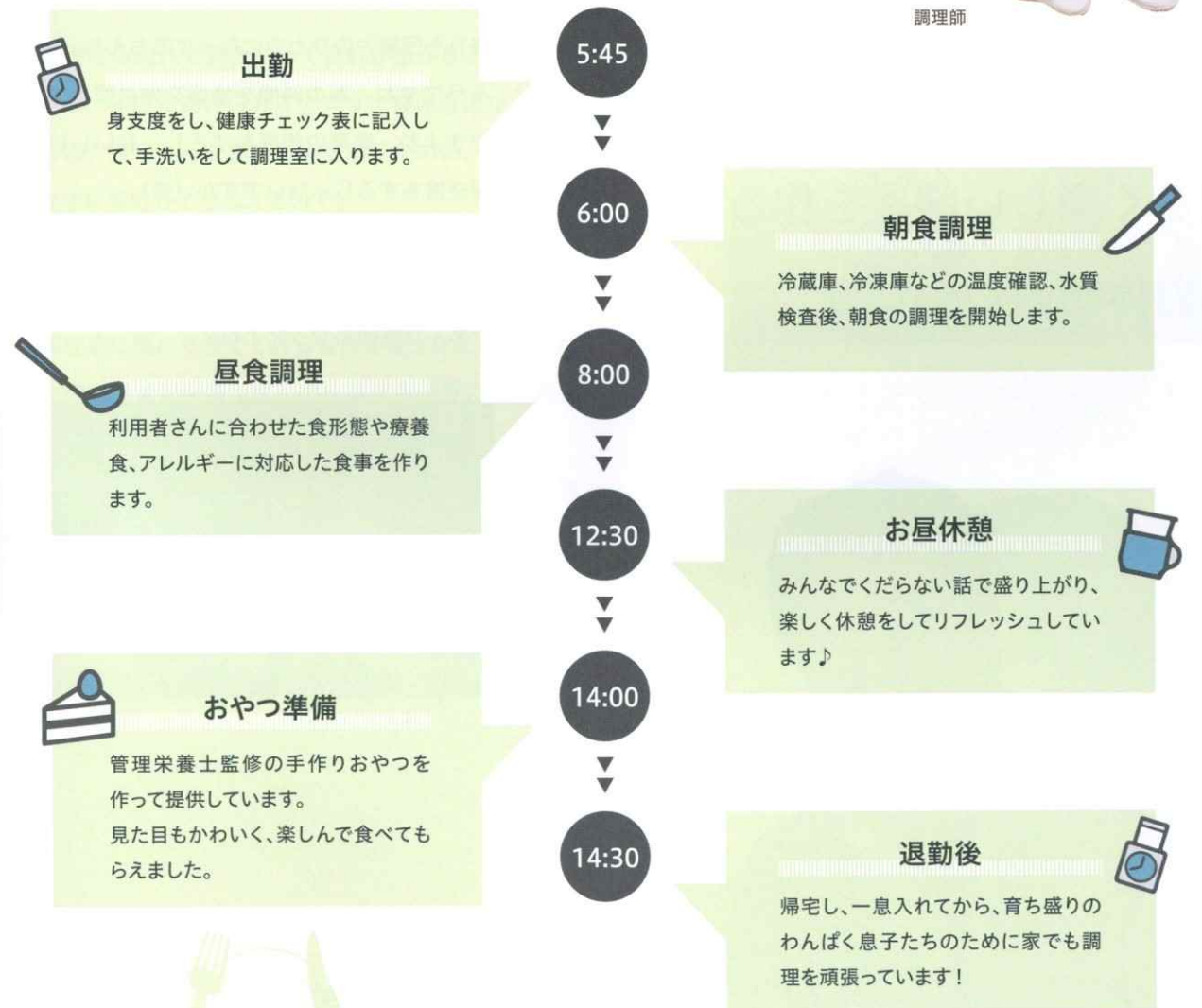
季節を感じる楽しい食事笑顔に！

調理師の仕事は、利用者さんに合わせた食事を作ることです。施設にしながら季節を感じられるよう、恵方巻きやお刺身などの行事食を提供します。また、毎週1回、各県の料理を楽しめるよう郷土料理が登場します。サービスにおいては、月1回スイーツ

バイキングを開催し、季節に合わせたスイーツを手作りし提供しています。社内ライセンス制度や調理コンクールがあり、ライセンス取得者には手当が支給されます。スタッフが笑顔にあふれ、生きがいを感じながら働ける職場です。



石丸 朋子
ケアホーム船橋
調理師



CROSS TALK

- 01 -

調理師

×

管理栄養士

病院勤務の
2人に聞く!

連携すること 10年以上!

明るく楽しい部署を作る

協力体制の作り方

谷川 こうやって2人で並ぶと固くなるよね。

田口 (笑)。いつもの雰囲気をお願いします!

谷川 はい!お願いします(笑)。

「みんなで取り組む習慣」が コミュニケーションの秘訣

谷川 栄養部は年齢も職種も違うスタッフが集まっているけど、協力体制ってどう?

田口 そうですね、重い空気感にならずに、だいたいどこかで笑いが起きてますよね。良い環境を維持できると思います。谷川さんが率先して栄養管理業務に協力してくれるので、調理師さんたちも栄養管理の時間を気にしてくれます。

谷川 まだ成長段階やけど、僕はズバツと田口さんが決断して、方向性を示してくれるから働きやすい職場やと思ってる。あと、週に一度は調理場清掃もあるし、あれも団結力のひとつになってるもんね。

田口 そうですね。あの時間を情報交換に使うことも多いですね。業務の相談もするし、おいしいお店の情報交換もするじゃないですか(笑)。

谷川 みんな食に興味がある人から、やっぱり食いつきが違う。手を動かしながら、口も動かして。昔からずっとあんな雰囲気やったよね?



谷川 貴洋

岸和田平成病院
調理師



田口 そうですね、ずっと変わってないですね。私が入職したときから、谷川さんも今と変わらず、場を和ませてくれてよく喋る面白いおじさんでしたけど(笑)。

谷川 (笑)。あれから10年以上やね。そういえば、一時期、調理スタッフが少なかったときに、頻りに調理場の応援に入ってくれてありがたかったな〜。

お互いの仕事を少しずつサポートする

田口 調理場の流れも覚えられて視野が広がりますよ。私こそ、すごく助けられています。管理職になってからは、谷川さんを頼る機会も増えたのに、嫌な顔をせずに協力してもらえるので。

谷川 そう思ってもらえると嬉しい。バタバタすることが多いなかで時間内に食事提供ができるのは、いつも調理場に飛んできてくれる管理栄養士さんのおかげ。調理師が管理栄養士さんの仕事を手伝えることは難しいけど、できる範囲は協力していきたいな。

田口 そうですね、良い距離感で助け合いたいですね。管理栄養士だけが「こうしたい」って思っても難しいですし、調理師だけが「こうすべき」って思ってもできない。お互い「任せっきり」にならずに、いい雰囲気を作ることも大切にしたいですね。

田口 雅子

岸和田平成病院
管理栄養士

視点は違ってもゴールは同じ

田口 谷川さんって若いスタッフへの指導法も率先して伝えるタイプですか?

谷川 うーん、どうかな。言われてから動くよりも、できるだけ先に行動してほしいって伝えてるかな。仕事への欲みたいなこととか、ちょっと工夫して気を配ることが提供する食事につながっていくと思うし、コンクールも調理ライセンスにも反映されるやん。

田口 谷川さんが着ている黒エプロン(※調理ライセンス5種取得者が着用できるエプロン)の2代目、輩出したいですね。

谷川 活躍できる場がたくさんあるから、盛り上げていきたいね。

田口 そうですね、今よりもおいしいって言ってもらえるようにがんばっていきたいです。



管理栄養士



管理栄養士

施設での
管理栄養士のお仕事とは!?栄養、医療の知識も問われる仕事に
大きなやりがい

大城 堤さんは今では栄養部を管理する課長ですけど、もともとは施設で働いたんですよね。どういう点で施設の仕事に興味を持ったんですか。

堤 施設で働くと、想像以上に栄養管理や医療の知識が問われて、そこにやりがいを感じたんだよね。施設の利用者さんって思ったより低栄養になっている方がたくさんいるし、さらに食べられない方もいる。放っておいたら体重も減っていくし。

大城 そもそも病気を持った人も多いですし、病気もひとつだけじゃなくて複合していますよね。

堤 病院と比べると、施設は医療的な知識を持ったスタッフ



大城 拓士

ケアホーム花畑
管理栄養士

の数が限られるので、管理栄養士の存在がとても大事で。回診に来る医師に利用者さんの状態を報告するのが、看護師と管理栄養士だったりするよね。

大城 そういう意味では、他職種から頼られることも多いかもしれないです。

堤 だからこそ管理栄養士の取り組みって如実に影響が出るところで、しっかりできている施設は健康管理の質が上がるけど、うまくできていない施設だと質の低下が目に見えるからね。

正しさだけじゃない、
施設ならではの栄養管理

大城 僕が興味を持ったのは、施設では長いスパンで考えた栄養管理ができることですね。その場所で長く生活していくので、取り組みの結果を追い続けていきますし、より個人に合わせていけるとところに面白みがあります。食事が利用者さんの楽しみとして占める割合は大きいので「どうやって食べてもらおう」という工夫もいろいろとしますし。好き嫌いとか、お酒を飲みたいという希望にも応えますからね。もちろん、健康面は考慮しながら。

堤 いわば家として楽しく暮らしてもらう場だから、必ずしも栄養管理的な正しさだけが正解にならないこともあるよね。何かを制限することが健康面では正

しいかもしれないけど、それで生活のクオリティーが下がるくらいなら、そんな栄養管理はしない方がいいし。ある程度は自由な部分も必要だと思う。

大城 だからこそ、医師には必ず確認を取りながら進めていって。「塩分量は調整するので、このおつまみを食べさせてあげてもいいですか」とか(笑)。

堤 そのバランスを取る役割は、管理栄養士に求められるところかもしれないね。

大城 それと施設は利用者さんとのふれあいも魅力のひとつです。いつもすれ違えば挨拶もするし、食事のことに限らず、けっこう雑談もしますよね。

堤 利用者さんから「オセロをしよう」と言われて「その代わりに、僕が勝ったらお茶を飲んでね」ということもあったよ。でも一回、全部真っ黒にするくらい圧勝しちゃって「もうやらない」と言われた(笑)。

大城 それはやりすぎです(笑)。

自信を持って仕事に取り組んで欲しい

大城 これから入職を希望する管理栄養士の方にアドバイスはありますか。

堤 管理栄養士の資格を持って入職したからには、自信を持って仕事をしてほしいって思うよ。「こうした」という提案についても、安全面に問題が無い限りは「一度やってみて」と答えているし。

利用者さんと密接に関わりながら成長
施設だからこそその栄養管理の魅力

大城 そうやって自分でやった結果から学ぶことは大事です。

堤 最初から全部答えを与えてしまうと、指示待ちスタッフになってしまうからね。判断を求められることも多いからこそ、自分で考えられるようになってほしい。

大城 もちろん、相談には乗りますしね。最初は大変かもしれないけど、必要なことだと思います。逆に、意欲的なスタッフにとってはいい環境とも言えます。

堤 提案はしやすいよね。つい最近も「グループの付加食を見直したい」という提案をしてくれた管理栄養士がいて。施設や病院の枠を超えて、グループ全体に関わる仕事もできるというのが特長だと思う。だからこそ、勉強はずっと必要だね。

大城 勉強も、硬い感じでなく楽しんでやっている人が多いですよ。

堤 確かに、前向きな感じで取り組んでいるかも。これからは楽しみながら成長していきたいね!

堤 亮介

ケアホーム花畑
管理栄養士

管理栄養士 × 栄養士

職種の垣根を
超えています！

管理栄養士と栄養士、
実際の現場では
こんな風に協働しているんです！



木田 博子
ケアホーム 鷺敷
栄養士



辻 好恵
博愛記念病院
管理栄養士

協力が不可欠なお互いの仕事

- 辻** 同じ徳島県内にいますが、お話するのは初めてですね。木田さんは、明るくてお子さんがたくさんいらっしゃるというイメージでした。
- 木田** 子どもは中学2年生、小学5年生、5歳、2歳と、4人いますよ。
- 辻** うちも2歳の子がいるので、子育ての大先輩だと思っています。
- 木田** 辻さんは今どんな仕事をしていますか。
- 辻** 博愛記念病院 栄養部の係長として管理業務に携わりながら、病棟で患者さんの栄養管理をして、たまに厨房にも入って。それと、グループ栄養部の「栄養業務支援課」の仕事もしています。
- 木田** 多岐に渡っていますね！ 私は基本的に厨房に入っていて、調理業務、味付けなど全般を担当しています。主任という立場なので、作業とか出来上がりの確認をして。それと、厨房での教育とか、発注とかの業務も担当してますね。
- 辻** それぞれ病院と施設の違いはありますが、管理栄養士と栄養士さんの関係性は同じような感じですよね。管理栄養士は患者さんの栄養管理とか、他部署との調整について主に担当して。



- 木田** 栄養士は主に厨房現場のことですね。調理師さんや調理補助のスタッフさんと協働して、厨房業務を円滑に回していくと言いますか。
- 辻** 患者さんの栄養状態・食形態については、管理栄養士が他職種と連携しながら調整するんですけど、当然調理の現場に関わってくる内容なので、栄養士さんとも調整します。栄養士さんには、うまく厨房の現場を取りまとめてもらっていますね。
- 木田** 厨房と病棟をつなぐ役割というか、やっぱり常に連携を意識しています。

尊重し合うことが本当に大事！

- 辻** 患者さんから食事について細かいご要望をいただくこともあるんですけど、その対応については栄養士さん、調理師さんにも意見をもらうようにしています。やっぱり私たちの考えだけでは出ない発想もあるんです。
- 木田** うちでも、管理栄養士さんが聞いてきてくれた利用者さんの好き嫌いについて、どう対応していくかっていうのをみんなで相談していますね。
- 辻** それぞれ対応するとなると、かなり細かいですもんね。そもそもうちのグループのマニュアル自体が細かいですし（笑）。私が所属する栄養業務支援課はマニュアル作成も担当しているんですけど、現場を知らずにただ押し付ける、ということがないように、いつも思っています。
- 木田** それもあってか、管理栄養士さんも1年目は必ず厨房業務を担当しますよね。

- 辻** 盛り付けとかの担当が多かったですけど、それを経験することで仕事の流れを把握できますから。
- 木田** 実際の手順がわかっているのといないのとでは違いますからね。

出産・子育てしながら、長く働ける職場

- 辻** 木田さんは、産休・育休はその都度取られたんですか。
- 木田** いただきましたよ。戻ってきやすいようにみんながサポートしてくれて、ありがたかったですね。
- 辻** 本当に助けられますよね。お互い支え合いみたいな感じで。
- 木田** だから今は恩返しじゃないけど、同僚にお子さんができたら積極的にカバーするようにしています。
- 辻** そのためにもスタッフがちゃんと揃っていることが大事ですよね。スタッフが少なくて残業が常日頃からあるっていう状況だと、保育園のお迎えも大変ですから。
- 木田** 辻さんはお仕事の目標はありますか。
- 辻** 木田さんが子育てされながら仕事される姿が励みになるので、その背中を目標に、追いかけていきたいです！だからずっと仕事を続けて欲しいですね（笑）
- 木田** ありがとうございます（笑）。私は、より良い食事作り、喜んでいただける食事作りのためにがんばっていきたくです。大変なこともあるけど、やりがいも多い仕事ですから。
- 辻** お互い協力しないとできないですね。がんばっていきましょう！



CROSS TALK

- 04 -

調理師



調理師

病院の調理って
こんなお仕事!

病院の働きやすさに魅力

- 平田** 一緒に働いてもう7年目やね。
- 水岡** 厨房では長い2人なので、僕が言うのも何ですけど、戦友みたいに思っています(笑)。
- 平田** (笑)。お互い病院で働くのは初めてだったけど、水岡さんはどうして病院を選んだのかな。
- 水岡** 以前は居酒屋をやっていたんですけど、当時は子どもがまだ小さくて。飲食業はどうしても拘束時間が長くなるので、奥さんに育児を任せきりになってしまっただ変だと思ったのが大きかったです。
- 平田** 家庭のことを考えて決めたんやね。病院は就業時間がきちりしてるのがいいよね。僕も飲食店とかホテルでずっと働いてきたので、その点が魅力だったよ。それと、病院食っていう分野も新鮮だったし。
- 水岡** 働きやすさを決め手に入職する調理師は多いですよ。

覚えることは多い! でも仲間同士で助け合う

- 平田** 最初は「献立通りに食事を作ればいんだらうな」って、少し簡単に考えていたよね(笑)。
- 水岡** 実際は患者さんの病状とか嗜好に合わせて食事が細



分化されているので、そう単純な話じゃないって、後からわかりますね(笑)。

- 平田** ソフト食、ペースト食とか、病態に応じた食形態が5種類もあって…覚えることが多くて驚いたなあ。
- 水岡** ただ、栄養に関する知識もついてきますし、いい経験は積めると思います。
- 平田** やっていくうちにだんだん覚えていくし、それと一緒にいる仲間に助けられたね。いろいろ助け合ったり相談したりできるのがいいところだと思っているよ。

常に相談しながら 協力体制で進める仕事

- 平田** その日の出勤者から献立リーダーを立てて、僕らはそれを見守る立場だから、2人揃って仕事する機会は前より減ったね。
- 水岡** その分、2人揃った時は仕事の相談をしますよね。先々の献立を見て、複雑な作業が入りそうなときは「この作業をこう変えてもいいですか」とか、事前に確認をして。
- 平田** それ以外に、献立や調理についてのことは、管理栄養士さんに相談することも多いね。その点に関して

厨房の仲良し先輩後輩コンビ 協力体制でより良い食事を 提供していきたい!

は職種間でしっかり連携が取れていると言えるね。

水岡 厨房は幅広い世代がいますけど、関係なく仲良くやれていますね。

モチベーションアップにつながる ライセンス制度

- 平田** 調理師は、グループ独自のライセンスを取得できるのが特長かもしれないね。
- 水岡** タイムトライアル、卵料理、お寿司と、魚の下処理、それとケーキ作りのテストがあって。
- 平田** そのうち僕が3つ、水岡さんが5つ全部を取得してるけど、最初に受けた時は2人とも全部落ちたよね(笑)。
- 水岡** (笑)。「大丈夫やる」って軽く考えていましたけど、甘かったですね。
- 平田** これから初めて受ける人にアドバイスをするとしたら何かあるかな。
- 水岡** きっちり見本通りに作る必要があるから最初は苦勞するかもしれませんが、でも、見本動画がグループ内で共有されているので、それを参考にしながら、とにかく練習はたくさんするのがいいです。
- 平田** 技術も高められて、合格すれば手当が支給されるし、意欲的に取り組もうという気持ちも出るよね!

職場環境をもっと充実させたい!

- 平田** これからも、人の立場に立った食事作りを続けていきたいね。おいしくて健康的なのはもちろん、見た目も食欲をそそるものを。あとは、連携をもっと強化したいな。
- 水岡** 厨房でもし何かトラブルが起きても解決しやすいですし、多職種で連携が取れていた方が患者さんのためにもなりますよね。
- 平田** そのためにも、職場環境も充実させたいと思っています。
- 水岡** 今はちょうど入職したてのスタッフが多いですけど、みんながひとり立ちできれば、職場に余裕ができて、僕らもほかのことに手をかけていけますからね。
- 平田** さらにみんなが働きやすい環境を作っていきたいね!



平田 好寛

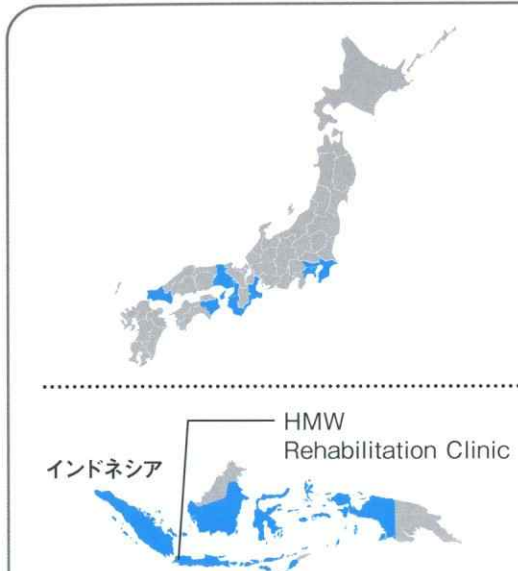
平成病院
調理師



水岡 拓也

平成病院
調理師

Group Map



■ 病院・クリニック数 ————— 26

■ 施設・学校数 ————— 86

(開設予定も含む / 2019年3月現在)

当グループは、東京・大阪をはじめ全国に26病院、86施設・学校を開設・運営しています。治療を終えた患者さん・利用者さんを早期に受け入れ、積極的な治療とリハビリテーションを行い、短期間での在宅復帰を目指します。今後は、世界にグループの医療を広めることを目的に海外事業も展開。第一弾としてインドネシアにクリニックを開設しました。

くわしくはグループホームページへ <http://www.hmw.gr.jp/>

1 山口県

病院 山口平成病院

施設 ケアホーム山口
ヴィラ本郷
ケアハウス山口エルベ
レジデント山口
グループホーム本郷
平成小規模多機能センター
へいせいホーム
平成デイサービスセンター平田
平成デイサービスセンター黒磯
てとてと岩国

2 徳島県

病院 博愛記念病院
江藤病院
徳島平成病院

施設 平成アメニティ
ケアホーム鷺敷
ヴィラ勝占
ヴィラ羽ノ浦
ケアハウスエルベ
グループホーム勝占
グループホーム渭北
グループホーム八万
グループホーム鳴門
八万小規模多機能センター
鳴門小規模多機能センター
メディケアハウス平成
鷺敷デイサービスセンター
平成デイサービスセンター羽ノ浦
てとてと徳島
江藤ケアセンター

3 兵庫県

病院 東浦平成病院
平成病院
南淡路病院
西宮回生病院
神戸平成病院
大原病院

施設 ヴィラ光陽
ヴィラ播磨
ヴィラー宮
ふるさとの家
ケアホーム東浦
ケアホーム南淡路
平成クラブ
かおりの丘

有馬ホロンの苑
ケアハウス東浦エルベ
淡路エルベ
グループホームふれあいの家
グループホーム北淡
北淡小規模多機能センター
レジデント東浦
てとてと洲本
ココロネ淡路

学校 平成リハビリテーション専門学校
平成淡路看護専門学校

4 大阪府

病院 豊中平成病院
平成記念病院
弥刀中央病院
岸和田平成病院
泉佐野優人会病院
堺平成病院
おうち診療所 堺

施設 ケアホーム豊中
弥刀介護老人保健施設
メディケアハウス春木
レジデント豊中
優人会小規模多機能センター
中央デイサービスセンター
離宮 千里山
サポートあいかわ
グループホーム エスペランサ
えんじょい
てとてと東大阪

DANKE
Palette
だんけのそのほろほろクラブ
歩笑夢
淀川地域障がい就労・生活支援センター
特別養護老人ホーム 淀川暖気の苑
淀川暖気の苑 高齢者デイサービスセンター
居宅介護支援事業所 淀川暖気の苑
十三プランチ
だんけ配食サービス
ホームヘルプサービス事業 だんけ
地域生活支援センター すけっと
たがわ福祉センター
海萌
だんけ デイサービスセンターたがわ

7 東京都

病院 世田谷記念病院
多摩川病院
緑成会病院
緑成会整育園
大内病院
大内クリニックおおくぼ
平成扇病院

施設 ケアホーム足立
ケアホーム板橋
ヴィラ町田
藤香苑
高齢者グループホームこもれび
小規模多機能センターほのぼの
平成デイサービスセンター足立
ケアホーム千鳥
ケアホーム花畑
てとてと小平
てとてと大岡山
整育園通所センター
OUCHI

学校 聖和看護専門学校

6 三重県

施設 ヴィラ四日市
富洲原複合型サービスセンター
富洲原通所介護センター

5 和歌山県

施設 緑風苑

8 神奈川県

病院 平成横浜病院

施設 ケアホーム横浜
ケアホーム三浦
ヴィラ横浜
ヴィラ桜ヶ丘
ヴィラ南本宿
ヴィラ都筑
ヴィラ泉
ヴィラ神奈川
てとてと戸塚

9 千葉県

病院 印西総合病院

施設 ケアホーム船橋

調理師オリジナルライセンス制度

調理師は社内試験に合格するとお給料 UP !

患者さん・利用者さんによりおいしく楽しいお食事を提供できるように、オリジナルライセンス制度を設けています。実際の調理の完成度や技術、タイムトライアルなどの実技試験を重ね、厨房で必要とされる技術を磨くことを目的としています。また、ライセンス取得者には手当を支給し、グループ全体で調理技術の向上を応援しています。

技術と食事の質の向上が目的です。自分の得意分野から受験できるので、ぜひチャレンジしてみてください！

ライセンス5種取得者は
マイスターエプロンを着用！



調理コンクール



年に一度のコンクールで 所属施設代表として腕を磨きます！

献立や調理の質向上を目指して、所属施設の代表者が腕を競い合います。他施設の職員とのコミュニケーションを深める場でもあります。入賞した献立は、後日、患者さん・利用者さんに提供されます。

デザートバイキング

アイデアを生かして多彩なスイーツ作り！ 「デザートバイキング」

施設のデイサービスなどでは、利用者さんに多彩なスイーツを振る舞う「デザートバイキング」を定期的で開催しています。利用者さんに人気だけでなく、スタッフにとってもスキルや発想を活かせる良い機会。より喜んでいただくため、腕によりをかけて準備します。ノウハウ共有のため、他施設を見学して学ぶこともあります。



福利厚生

休日・休暇

4週8休・夏季休暇3日・冬季休暇3日（年間110日）、有給休暇：初年度10日（最高20日）、慶弔休暇・産前産後休暇・育児休暇・介護休暇

待遇

退職金制度あり（勤続3年以上）、賞与（年2回）、給与見直し（年1回）、役職手当、皆勤手当、時間外手当、通勤手当全額支給（規定あり）、早出手当、夜勤手当、介護職員初任者研修費用 全額補助制度あり

福利厚生

各種保険完備（健康・厚生・雇用・労災）、職員食堂完備（管理栄養士監修）、職員旅行（国内温泉・観劇など）、各種イベント（ホテルでの忘年会・運動会・阿波踊り）、福利厚生サービス「ベネフィット・ステーション」（宿泊施設・スポーツ施設・リラクゼーション施設などの利用時優待）、契約保養所（エクシブ）、人間ドック利用補助制度（規程あり）、無料託児所、送迎バス、マイカー通勤可（施設規定による）、社員寮

育児・介護支援

育児短時間勤務：小学校卒業まで利用可（諸規定あり）
介護短時間勤務：5年まで利用可（諸規定あり）

自己啓発支援

内部研修会・学会（グループ学会への参加と演題発表、各部門別の内部研修会あり）
外部研修会・学会（研修会・学会への参加費用補助制度あり）

※ 病院・施設により規定内容が異なる場合や、利用できないものもあります。また、職種により待遇内容が異なる場合があります。なお、内容は規定変更により変更されることがあります。くわしい内容は各施設にお問い合わせください。

イベント



職員旅行

日帰りまたは宿泊の国内旅行が
楽しめます



運動会

運動会は職員の家族も参加でき、
とても盛り上がります



阿波踊り

本部が徳島県にあるため、
阿波踊りへの参加が盛んです

就職に関するQ&A

question 1 教育制度はどのようになっていますか？

answer

新人から中堅・役職者までそれぞれの段階にあった教育を行います。
定期的に部門会を開催し、他施設の職員と共に学ぶ機会も準備しております。
調理師にはグループ独自のライセンス制度を設けており、食事提供に必要な技術を磨くことができます。

question 2 勉強会の頻度はどのくらいですか？

answer

各病院・施設により開催頻度は異なりますが、月に1度は必ず研修や勉強会があります。
そのほか、外部研修も積極的に参加できる環境です。

question 3 学会参加や勉強会参加への補助制度はありますか？

answer

グループが推奨している、もしくは業務指示として参加をお願いしている学会・勉強会については参加費・交通費・宿泊費はすべて病院・施設負担で参加できます。個人的に参加したい研修は、所属長へ申請のうえ、年に1回まで病院・施設の費用負担で参加していただけます。

question 4 配属部署は希望できますか？

answer

まずはしっかり業務の基礎が学べる部署に配属となります。
その後はご本人の希望や面談などで配属先は決定されていきます。
必ずしも希望の配属になるとは限りません。

question 5 子育て中に働きたいのですが、託児所はありますか？

answer

託児所の有無は病院・施設によって異なります。託児所が整備されているところでは、3歳まで無料で利用していただけます。また、早出・遅出・日曜祝日勤務・夜勤などにも対応しています（事業所によって若干異なります）託児所がない場合でも子育てを応援する姿勢は変わりませんので、育児にかかる休暇などの支援体制があります。

question 6 休日・休暇はどのように設定されますか？

answer

年間休日は110日です。多くはシフト制になっています。365日サービスを提供しているため決まった曜日に休みを取ることは難しいですが、月平均8回～9回の休日を取っていただくこととなります。また、夏季休暇と冬季休暇がそれぞれ3日間ずつあり、有給休暇を取ることも可能です。

question 7 職員寮はありますか？また、ある場合は利用できますか？



answer

職員寮の有無は病院・施設によって異なります。
利用の条件なども異なりますので入職を希望される病院・施設がありましたらお電話やメールでお問い合わせください。

question 8 全国展開している医療福祉グループということですが、グループ内での転勤などはありますか？


answer

引っ越しが必要になる遠方への転勤は基本的にはありませんが、エリア内の近隣施設への異動や、研修異動（終了後は基本的には元の勤務地へ戻ることが前提）をお願いする場合があります。全国展開の強みとして、諸事情（結婚など）で県外へ行くといった場合でも、引っ越し先付近に関連病院・施設があれば、そちらへ転籍することも可能です。

お問い合わせ  




グループサイト
<http://www.hmw.gr.jp/>

平成医療福祉グループ 



 facebook @HMW.group

 Instagram @hmw_group



平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP

山口平成病院の ご案内

About
Yamaguchi Heisei Hospital





絶対に見捨てない。

いたい、つらい、くるしい、かなしい。

わからない、しらない、なぜ、どうして。

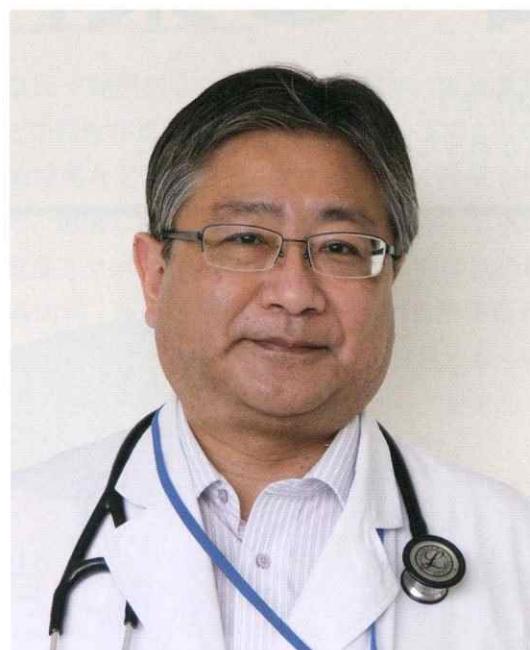
不安なあなたの手を、どうかさしだしてください。

私たちは必ずその手をとります。

助けを求めるすべての人へ、絶対に見捨てない医療を。



山口平成病院
YAMAGUCHI HEISEI HOSPITAL



山口平成病院 院長

立石 肇

当院は、「絶対に見捨てない。」の病院理念のもと、急性期病院での治療を終えられた患者さんを迅速に受け入れ、入院早期からの積極的な治療とリハビリテーションにより、できるだけ早く自宅や施設に退院していただくことを目標とした医療サービスを提供する病院です。

また、在宅療養や施設入所の患者さんの状態が悪化した場合に、診療所の先生からの紹介に対し迅速に入院受け入れをすることで、在宅療養支援病院として在宅医療のサポートを行っています。充実した急性期後の治療により、少しでも多くの患者さんに在宅復帰していただくために医療設備を整えスタッフ一同日々努力しております。

当院を退院した患者さんに対しては訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、デイケア（通所リハビリテーション）などのサービスを用意しており、退院後も一貫した医療、看護、リハビリテーションで患者さんを支えてまいります。近隣の診療所や医療機関と連携を図り、地域のみなさんが安心できる地域医療を確立していきたいと考えております。

外来診療科目のご案内

当院には多くの診療科目があります。
その一つひとつをくわしくご紹介します。困ったことがあったらぜひご相談ください。

01 内科

一般内科 消化器内科
循環器内科 呼吸器内科

内科は幅広く診療を行い
連携して適切な医療を
提供します。

総勢45人の
リハビリスタッフが
お待ちしております！

リハビリ02 テーション科

体調に変化や不安があるときには、
ぜひお気軽にご相談ください。

治療はもちろん、
治療終了後にも、安心して
療養生活が送れるよう
しっかりと支援いたします。

内科



一般内科

高血圧や糖尿病などの生活習慣病や、胃潰瘍や肝炎などの慢性疾患、そして風邪・腹痛・下痢などの一般救急疾患など専門分野以外にも幅広く診療を行っており、地域のみなさんがもしもの時に頼れる病院として健康をサポートいたします。また、循環器内科・消化器内科・呼吸器内科、それぞれの専門医師が他科とも協力し合い、連携してさまざまな視点から痛みや不調の原因を診断し、対処法を見つけていきます。

循環器内科

循環器内科は、血液を循環させる心臓と血管を診る診療科です。あまりなじみのない診療科かもしれませんが、高血圧や動脈硬化、血栓が原因の心筋梗塞など、循環器に関する病気は意外と身近なものです。

呼吸器内科

呼吸器内科は肺、気管支などの呼吸器系の病気を取り扱う内科の部門です。咳が出る、痰が出る、息が苦しいという症状がある方は当科の受診をすすめます。また、睡眠時無呼吸検査も随時行っております。

消化器内科

消化器内科では消化管（食道・胃・十二指腸・大腸）と肝臓・胆のう・胆管・膵臓などに生じる疾患を中心に診察・治療を行っています。食べ物の消化に関わる全ての臓器を診ることができる、幅広い診療を行っています。

胸焼け、胃もたれ、胃痛、腹痛、吐き気、食欲不振、疲労感、便秘、下痢、血便、体重減少などは消化器内科に関連する疾患の可能性がありますので、お気軽にご相談ください。

こんな症状の時
受診しよう

- ・風邪っぽい
- ・顔や足のむくみ
- ・高血圧
- ・息苦しい

リハビリテーション科 02



神経、骨・関節、内臓疾患などにより何らかの障害をきたした患者さんに対し、診断・評価を行い、専門スタッフが治療・リハビリテーションを行います。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多数在籍しており、機能改善や障害予防、ホームエクササイズ等、一人ひとりの症状・生活に合わせた専門的なリハビリテーションをご提供いたします。

こんな症状の時
受診しよう

- ・動かしにくい
- ・痛みを軽くしたい
- ・できることを増やしたい

山口平成病院の
リハビリテーション
への向き合い方

絶対に見捨てない リハビリテーション

病院での治療が終わり、抱えていた病気が治れば患者さんはすぐに元の生活に戻れるのでしょうか。長い療養や
当院では、その人らしい生活を取り戻すため、リハビリテーションに力を入れて取り組んでいます。リハビリテ

治療の末に、その人らしい生活が奪われてしまう。それで本当に「治った」ことになるのでしょうか。
リハビリテーションによって一人でも多くの人が自分らしい生活を取り戻せるように、私たちはリハビリテーションに取り組めます。



当院が 実践する リハビリ テーション

リハビリテーションを必要としない患者さんは存在しません。それなのに、回復期リハビリテーション病棟でリハビリテーションができる対象疾患は限られています。私たちは、疾患など関係なく、すべての患者さんを受け入れリハビリテーションを施すために、回復期リハビリテーション病棟以外の病棟も備えています。それが、私たちが自らをリハビリテーション病院と名乗らない理由です。限られた疾患の患者さんだけでなく、リハビリテーションを必要としているすべての人を支えたい。それが私たちの掲げる、「絶対に見捨てない。」医療です。



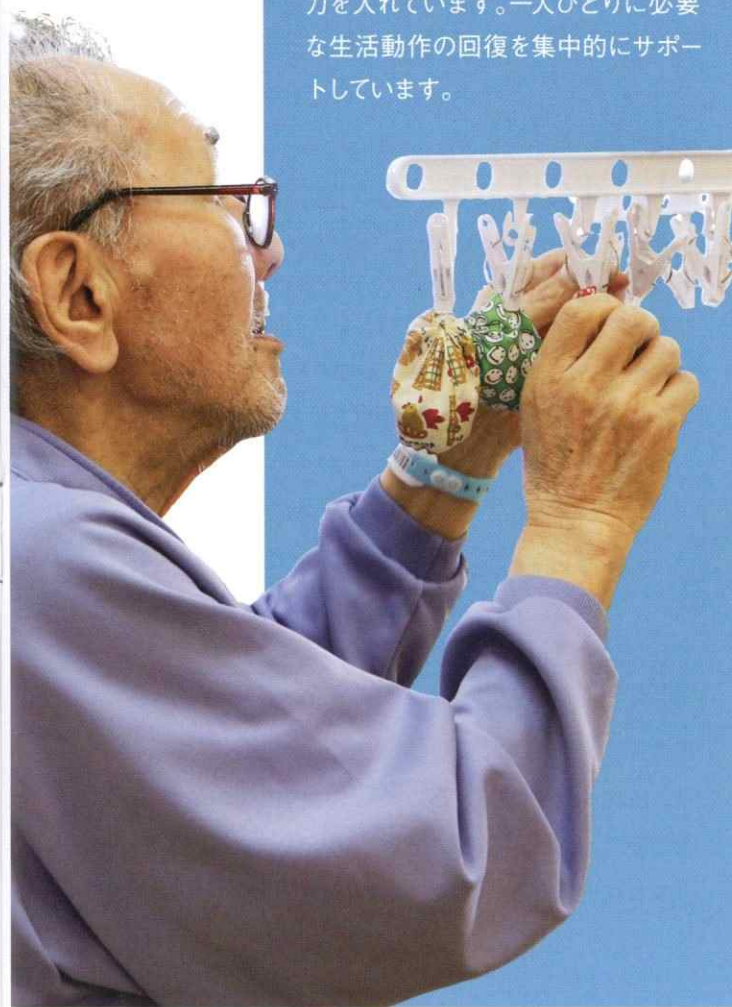
その人に合った リハビリテーション

私たちのリハビリテーションのスタートラインは、その人に一番最適なりハビリテーションを提案するところから始まります。そのためには、患者さん・利用者さんの病状や心身状態を的確に把握する事が大切です。当院ではリハビリテーションへのアプローチとして、inbody(体成分分析装置)を使用しています。

その人の筋肉量・脂肪量・水分量を分析し、体の状態に合ったリハビリテーションを提供できるよう努めています。また、歩行練習のサポートとしてHonda 歩行アシスト(歩行訓練機器)を導入することで、これまで歩行が困難だった方のリハビリテーションも可能になりました。

自宅に帰る ための リハビリ テーション

リハビリテーションに取り組む患者さん・利用者さんの一番の望みは、病気になる前のように「自分のいつもの暮らしを自分自身で行うこと」ではないでしょうか。私たちはその願いを真摯に受け止め、特に排泄・嚥下リハビリや、ADL(日常生活動作)の改善に力を入れています。一人ひとりに必要な生活動作の回復を集中的にサポートしています。



自宅へ戻った 後も続く リハビリテーション

実際にご自宅へ戻られてから、新たに問題点や不安点が生じた場合も、私たちにご相談ください。患者さんが安全で安心できる在宅生活が続けられるように、退院後も外来リハビリや、デイケア・訪問リハビリを続けられるサービスがあります。その際も、患者さんの入院中の情報を共有しているので、在宅復帰後も最適なりハビリテーションをスムーズに受けることができます。





当院が取り組む いろいろな リハビリ

離床への取り組み

入院生活で過度に安静な状態が続くと、身体能力の大幅な低下や精神状態に悪影響を引き起こす「廃用症候群」を招くことがあります。当院ではこの予防のため、趣味や娯楽を取り入れた、楽しみを目的とする離床や、生活に直結する目的のある離床など、徹底した取り組みを行います。目的を持って離床を行うことは、運動や認知機能低下の予防とともに、回復への最大の近道となります。

24時間365日 リハビリテーション

昼間以外の時間もリハビリテーションを提供します。退院後の生活環境や介助方法を検討するうえでも夜間の状況把握は大切となるため、当院では夜間の動作にもアプローチしています。特に夜間のトイレ動作や移動は転倒などのリスクも高く、介助に入ることでリスク回避や機能向上につなげていきます。

集団リハビリテーション

日中ベッドで寝ている時間を減らし、廃用症候群を防ぐため、他者とのふれあいや楽しみの要素を取り入れた、5~10名ほどの小集団によるリハビリテーションを行っています。お互いに協力し会話を楽しみながら、生活に必要な動作についてリハビリテーションを行うことが可能です。1日1~3時間、スタッフがさまざまなプログラムを提供し、運動や認知機能の低下予防と回復をサポートします。

個別リハビリテーション

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が1日最大3時間、個別でリハビリテーションを実施します。運動機能や認知機能、嚥下機能など、患者さんの状態を総合的に評価し、一人ひとりに合った最適なリハビリ計画を提案。集中的なリハビリテーションを提供することで、早期の在宅復帰をサポートしていきます。

ロボット リハビリテーション

脳卒中や脊髄損傷の患者さんに対して、ロボット機器を用いたリハビリテーションを実施します。歩行時の股関節の動きを検知し、コンピューター制御で足の振り出しを支援するHondaアシストなど、先端機器で患者さんをサポートします。

在宅分野での取り組み

患者さんが自分らしく安心した在宅生活を送れるよう、外来リハビリ、デイケア・訪問リハビリを提供しています。身体機能面の治療はもちろん、生活しやすい住宅環境の設定や、介助者へ介助方法のアドバイスなども行います。

多職種協働と退院支援

リハビリテーションの効果を最大限に引き出すため、医師、看護部、介護部、栄養部など、さまざまな専門職と強力なチームを形成し、全力で在宅復帰を支援します。また、退院の際はソーシャルワーカーやケアマネジャーと協力し、さまざまな制度や施設、機関などといった社会資源の活用や、介護福祉サービスについて情報提供およびご提案をします。



総合的な リハビリテーション視点

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士はそれぞれの職種の専門性を高めながら、お互いを知り、認め、そして情報共有を行っています。例えば、在宅のリハビリテーションにおいては3職種が一緒に関われないこともあるため、自身の専門領域でない問題に出会うことも少なくありません。しかしその際も、医師や他職種への相談、または対応策を提案し、トータルな関わりができるよう、常に総合的な視点による取り組みを実施しています。

Rehabilitative Intervention for Daily Living (RIDL)

トイレや着替え、歩行など、日常生活のなかで介助が必要な動作に関して、ピンポイントで専門的なリハビリテーションの提供を行います。個別・集団リハビリに加え、一人ひとりの生活で必要な動作への絞った訓練を行うことで、目標とする動作の早期獲得につなげます。

膀胱・直腸機能 リハビリテーション

尿意・便意の回復とトイレ動作の獲得は、在宅復帰における最重要課題のひとつです。自らの意志で、自らトイレで排泄を行う。健康な時であれば当たり前であった行為を取り戻すため、入院直後から早期排泄自立を徹底して意識し、一人ひとりに合わせたリハビリプログラムを実践します。



摂食・嚥下 リハビリテーション

高齢者は疾病などで状態が悪化した場合、嚥下(飲み込み)機能が低下し、疾病は治癒したものの、食事ができないために、在宅復帰ができないこともあります。これは、医学的リスクだけでなく、食の楽しみを奪い、QOL(生活の質)の低下も招く大きな問題です。その予防のため、言語聴覚士を中心に、入院後早期から嚥下機能を評価し、適切な食事とリハビリテーションで、機能訓練を行います。

ホームワークの推進

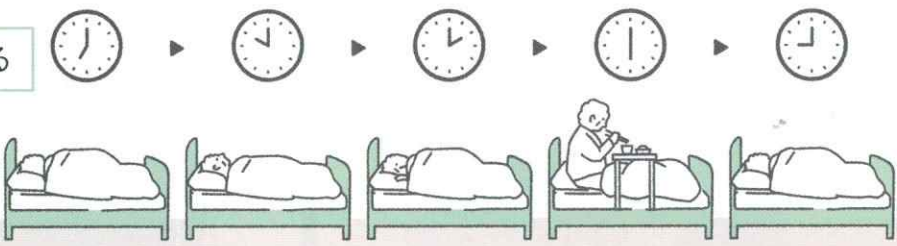
個別・集団のリハビリテーション以外の時間も有効に活用していただくため、一人ひとりに応じたホームワーク(自主的練習)を提案しています。患者さんが高いモチベーションでリハビリテーションに取り組めることは退院への近道となるため、積極的に取り組めるような訓練を提案します。

悪い慣習を
取り払う!

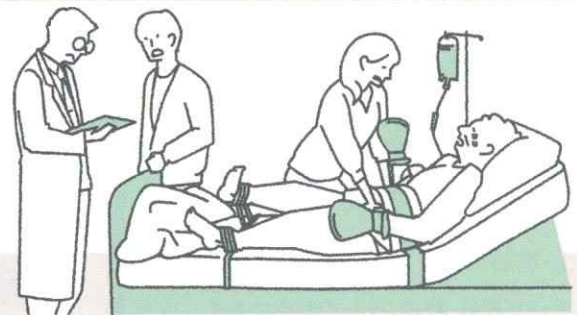
入院受け入れ体制

医療界にはびこる **BAD** ポイント

廃用症候群につながる
「不必要な安静」。

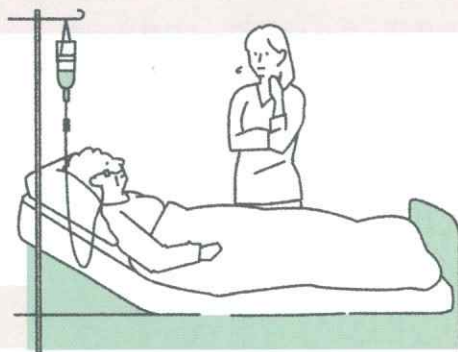


それは本当に
患者さんのために必要な
「抑制」?



病気を治すのは医療が中心で、
食事は「おまけ」?

在宅復帰を遅らせる、
「口から食べる」を考えもしない医療。



「自分でトイレ」を遠ざける、
「なんとなくそのまま」な
排泄ケア。

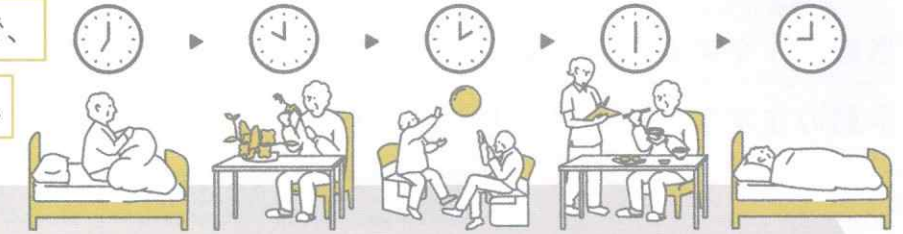


せっかくお家に戻っても、一人のできることが少ないと、生活するのはとても大変。
元の生活に近づくには、入院中からしっかり準備することが、在宅復帰への鍵になります。
多くの病院で行われている悪い慣習は、その在宅復帰の妨げとなるものが多いのです。
私たちは入院時によくあるこの慣習を取り払い、高齢者の在宅復帰をサポートしています。



当院が取り組む **GOOD** ポイント

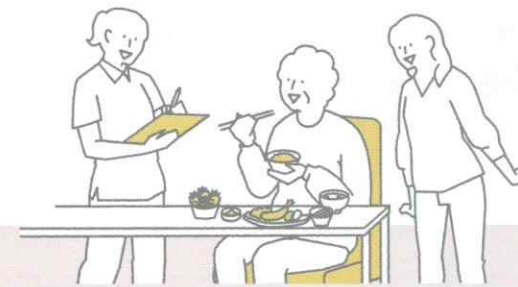
「楽しく、目的のある離床」で、
心身機能の低下を防ぎます。



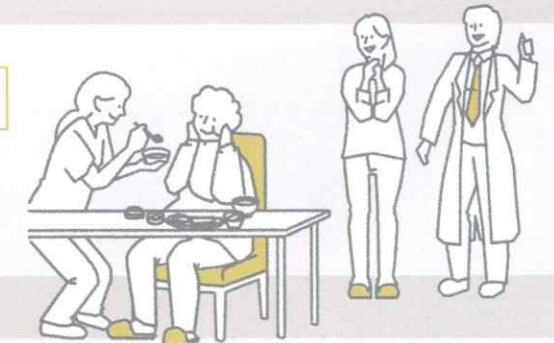
「抑制しない工夫」が
患者さんのために
なるのです。



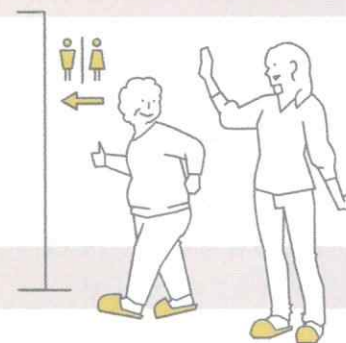
病気を治すには、
「きちんとした食事」が
必須です。



適切な評価とリハビリテーションで、
「口から食べる」を
サポートします。



膀胱・直腸リハビリをしっかり行うことで、
在宅復帰につなげます。



2つの
病棟でサポート
します!



病棟のご紹介

患者さんをスムーズに受け入れ、積極的なリハビリテーションと治療で、
早期の在宅復帰をサポートいたします。

▼ 回復期リハビリテーション病棟

病床数：46床

リハビリテーションに特化した専門病棟です

脳血管疾患や骨折の急性期治療が終了した患者さんを受け入れ、多職種によるチームで質の高いリハビリテーションを提供、心身の回復を図り早期の在宅復帰を目指します。退院後には関連施設や地域病院等と連携し復帰後の生活をサポート。1日のすべてがリハビリテーションにつながるような生活を提供することが特長です。

▼ 医療療養病棟

病床数：104床

急性期医療の治療後も療養が必要な方を受け入れます

高度急性期病院での治療が終わったものの症状が安定せず、すぐに在宅復帰できない患者さんを受け入れます。ご自宅や施設への復帰を目標に、集中的な治療と積極的なリハビリテーションを施すことで症状を安定させ、早期復帰をサポート。退院後に治療を要する状態となった際も、迅速に受け入れが行えるよう体制を整えています。

入院のお申し込み

365日24時間体制で受け入れる、安心できる診療を提供します。

病院からのご紹介



在宅主治医・施設からのご紹介



レスパイト入院について

常時医療管理が必要な方が在宅で療養されていて、ご家族(介護者)の事情(冠婚葬祭、旅行、病気、介護疲れなど)により在宅介護が一時的に困難になった場合に、当院で短期入院をすることができます。

利用可能な方

- 介護保険によるショートステイが困難で、医療的管理が必要な方
- 神経難病の方、人工呼吸器を装着された方
- 胃ろうなど経管栄養の方
- 自力歩行や排泄が困難な方

ご利用の流れ

レスパイト入院について、まずはお電話でお問い合わせください。
なお、レスパイト入院は空きベッドを利用して行います。
必ずしもご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。



訪問サービス

こんな方が対象です

- ✓ 退院後の在宅生活に不安がある方
- ✓ 通院することが難しい方
- ✓ 自宅でリハビリを受けたい方



訪問診療

住み慣れた環境で
安心した療養生活を送るために

退院後、自宅での生活に不安がある方、さまざまな事情で通院が困難な方などに向け、医師がご自宅へ定期的に訪問し、住み慣れた環境で不安なく療養生活を送っていただけるよう、支援いたします。看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士とも連携を取りながら、一人ひとりに応じた医療サービスを提供します。



訪問看護

主治医と連携しながらきめ細やかな
ケアで在宅生活をサポート

看護師がご自宅を訪問し、主治医の指示のもと、健康チェックや医療的処置、日常生活の支援を行うサービスです。「月2回の訪問診療だけでは心配」「自宅での生活に慣れるまで様子を見に来てほしい」といったご希望に合わせて、安心した療養生活が送れるようサポートします。



訪問リハビリテーション

自分らしい在宅生活を送るため
住環境に合わせたリハビリテーション

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などが利用者さんのご自宅を訪問し、リハビリテーションを提供するサービスです。身体機能面の維持回復はもちろん、生活しやすい住宅環境の設定や介助者への介助ポイントのアドバイスを実施。利用者さんが住み慣れた環境で、自分らしく生活ができるよう、専門スタッフがサポートいたします。



訪問・通所エリア

岩国市玖珂町・周東町・河内／柳井市伊陸／周南市熊毛
当院から半径10km

通所サービス

こんな方が対象です

- ✓ 退院後もリハビリを継続したい方
- ✓ 日常動作での不安を解消したい方



デイケア

9:00 - 16:00

送迎あり

ご自宅で安心して過ごすため
リハビリテーションで支援します

利用者さんが可能な限り自宅で自立した生活ができるよう、リハビリテーションを受けることができるサービスです。一人ひとりに合わせたオーダーメイドのリハビリテーションの提供や入浴、食事、多彩なレクリエーションなどで、生活向上や日常生活の支援を目指します。



外来リハビリテーション

9:00 - 17:00

退院後のリハビリテーションや
日常での体のお悩みに

医師の指示のもと、日常生活動作の向上を目指し、専門スタッフが機能訓練や運動療法などを実施します。「退院後もまだリハビリを続けたい」「体が動かしづらい」「嚥下機能に関するリハビリを受けたい」など、さまざまなお悩みをお持ちの方に、アドバイスやプログラムを提供します。





■受付時間 9:00~17:00

■休診日 日曜祝日・年末年始

〒742-0334 山口県岩国市玖珂町11340番地

総合受付 ☎ **0827-82-6111**
info@yamaguchihp.jp / yamaguchihp.jp

※夜間・休日における救急外来も行っております。受診ご希望の方は、ご来院の前に必ず総合受付までお電話ください。事前のご連絡が無い場合、処置ができないことがありますので、ご注意ください。